



ところで、神父様は御ミサのお説教のなかで、アンパンマンの絵本を読んいただきました。実は、アンパンマンの作者であるやなせたかしさんはクリスチャンだそうです。そう言われてみると、やなせさんの作品の根底には、単なる善悪二元論を超えた超越的な正義感や、ひたすらに周りの人を喜ばせるという、キリスト教的な愛の精神が流れているように思います。私が知っているやなせさんの言葉に

「人生で何が一番うれしいかという、人を喜ばせること。人を喜ばせることで、自分も嬉しい。」 「お互いに相手を喜ばせれば、何もかもうまくいくはず。」

「アンパンマンは世界一弱いヒーローだけれど、自己犠牲の精神なんだよ。」

「困っている人、飢えている人に食べ物を差し出す行為は、立場が変わっても国が違って『正しいこと』には変わりません」・・・等々があります。

もしかすると、パンである自分を食べさせて他者を救うアンパンマンは、イエス様なのかもしれませんね。

やなせさんは、すでに亡くなられておられますが、久しぶりにアンパンマンの絵本を見てアンパンマンのマーチを歌ってみました。

「**なんの為に生まれて何をして生きるのか
答えられないなんてそんなのは嫌だ!**」

アンパンマンの生きる意味は困っている人を助けること。困っている人のためならば、自分の顔を喜んで差し出すのです。

歌詞を読めば読むほど、「深い!」と感じ

やなせさんの人生をかけた問いかけを感じました。

聖書には次の文章があります。

「私は、天から降ってきた生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。

私が与えるパンとは、世を生きる為の私の肉のことである。」 (ヨハネによる福音書 第6章 41~59節)

イエス様はどれだけたくさんの人に分け与えても、なくなることはないパン。「私を食べていいよ」と、日々自らが私たちの糧になってくださっています。イエス様が説いたことは、神は全ての人の父であり、父である神は苦しむ人間の姿を見て、胸を痛み、救いに近づいてきてくださる方だ、ということ、そして、神が全ての人の父であるならば、私たちはみな兄弟姉妹である、ということでした。今日も、私たちが命を大切に、心をひとつに生きることができるよう・・・。

【これからに向けての生徒の決意】

今日のミサで自分の「存在」についての考え方が大きく変わりました。「私」という存在は唯一の存在であり、ほかの人も唯一のかけがえのない存在です。私は、自分も周りの人も大切にしたいです。また、さまざまな人を受け入れ、思いやりを持って接していきたいです。〇〇しかないと考えるのではなく、今自分に与えられたもののなかで精一杯努力し過ごしていきたいです。今回、自分の考えが変わったのも静修会やミサをすることができた神父様はじめ周りの方々のおかげです。日々自分のまわりにいる人に感謝し過ごしていきたいです。

私が小学生の頃から10年間、ずっと守り続けている目標があります。「困っている人に手を差し伸べる」という目標です。困っている人がいたら、「おたがいさま」とよく言いますが、私たちはそれができていない時がよくあります。私もそうでした。でも、いつからでしょうか。「人のことを助けると、相手も私も幸せになれる」ということに気づきました。私一人の力は小さいですが、必要としている人がいるなら、私のことを一瞬でも頼ってほしいです。

神様、あなたのようなすばらしいことはできません。ですが、人のために動け、そして、共に涙を流せる人になれるようお導きください。



そうだ おそれないて みんな
あいと ゆうきだけが とも

なにが きみの しあわせ
なにを して よろこぶ
わからないまま おわる
そんなのは いやだ!

わすれないて ゆめを
こぼさないて なみだ
だから きみは とぶんだ

そうだ おそれないて み

